学校法人　桑沢学園
２０２５年度　事業計画

Ⅰ　はじめに

本学園の創立者 桑澤洋子は、昭和初期から建築・室内設計・服飾等のデザインジャーナリズムの世界で活躍する中で、建築家グロピウスによって 1919 年にワイマールに設立された、造形芸術の総合学校「バウハウス」の存在を知り、大きな影響を受けた。

桑澤洋子は機能性や合理性を追求したデザイン活動をすすめる過程で、デザインの総合的な基礎教育と専門教育の重要性を強く実感し、教育機関の実現のために努力を重ね、1954 年に各界気鋭の教育者、芸術家、デザイナーたちの協力を得て、当時としては画期的なデザインの専門学校「桑沢デザイン研究所」を設立した。さらに高度な造形教育を追求する場として 1966 年には「東京造形大学」を設立し、今日に至る。

2025 年度は、学校法人桑沢学園 中期計画(Road to 2025：2021-2025)の最終年にあたることから、中期計画において掲げた 5 つの中期計画テーマに基づいた事業を展開しながら、次期中期計画(Road to 2030)への円滑な移行を念頭に置いて各施策を実行していく。

2025 年度の重点事業計画としては、次期中期計画において明示的に掲げる「社会に開かれた創造発信地」及び「森の中の美大」を指針キーワードとして、各部門において次の通り、事業を推進していく。

2 階から 4 階を桑沢デザイン研究所の教室として使用している桑沢学園新教育施設については、「社会に開かれた創造発信地」を指針キーワードとして機能を充実させる。更に、１階、地下については、学園として様々なコンテンツを実験的に発信する拠点「BAU SHIBUYA」の整備を進めていく。

東京造形大学においては、「森の中の美大」構想の実現に向けて、施設面での環境整備や立地上の課題である土砂災害等の対策を進めるとともに、学部教育課程の再編計画を中期計画テーマと連動させながら、教育プログラムや科目編成の検討などを進めていく。

法人部門においては、両設置校の施策実行の基礎となる安定的な学校法人運営のために、私学法改正に伴う寄附行為改正以降の役員や評議員等の構成の適正な移行、理事会や評議員会の適正な運営を行っていく。

学校法人桑沢学園 中期計画(Road to 2025：2021-2025)の中期計画テーマ及び、上記、重点項目を軸とした中期計画テーマに基づいた主な事業計画は以下のとおりとする。

Ⅱ 中期計画テーマ

1. 【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践（＝教育研究）
2. 【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり（＝学生支援、キャリア支援）
3. 【見える化】教育成果の社会発信と知識循環（＝広報、国際交流、社会連携）
4. 【やりガイ・働きガイ】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり（＝労務）
5. 【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理（＝リスク管理）

Ⅲ 中期計画テーマに基づく主な事業計画

東京造形大学

【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践

(1) 2027 年度教育課程改編にあたり各部会からの科目申請に基づき検討を行い、新教育課程を決定する。【「森の中の美大」テーマ】

(2) 修士課程における新教育課程改編及び教育の質向上に関する検討を実施する。

(3) 安全性を高めた木工制作設備や織機のコンピュータ制御機材等の導入、各教室の AV 設備デジタル化の推進等、制作・学修環境の更なる充実と利便性の向上を図る。

(4) 技術職員や助手の技術力向上のためのサポートを継続するとともに、各専攻領域と共通工房による学生向けのワークショップや研修等を行い、制作レベルの底上げや意欲の向上を図る。

【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり

(1) キャンパス敷地内の森林を整備し教育の場として活用するとともに、遊歩道のルート計画と整備についての検討を進める。【「森の中の美大」テーマ】

(2) 学生相談の主軸として学内に定着したスクール・コーディネーター制度を安定運用することで、問題をかかえた学生がより対話しやすい雰囲気を醸成し、制度導入から蓄積したノウハウを基に問題の早期解決につなげていく。

(3) 低学年を対象としたキャリア支援イベントについて、学生が参加しやすい実施形態の工夫を図りながら、継続的かつ効果的に実施する。

(4) 卒業年次生の進路状況の把握を徹底し、早い段階から個別に連絡を行うなど、進路未定者や就職活動継続者に対するサポートを強化する。

(5) 証明書発行の申請手続きを IT 化し、申請者と発行者の負担を軽減し、速やかな発行体制を構築する。

【見える化】教育成果の社会発信と知識循環

(1) 「森の中の美大」構想の進捗にあわせて、大学案内、HP、SNS 等の媒体を通じて、外部に対して積極的に発信する。【「森の中の美大」テーマ】

(2) オープンキャンパス開催日に、受験生や保護者に対して本学の概要や入試制度をより理解してもらうための説明会を開催する。

(3) 通常授業が行われている祝日に、本学の教育環境の雰囲気を受験生や保護者に体験してもらうための大学見学会を開催する。

(4) 高校内ガイダンスや模擬授業・ワークショップ、学外での進学相談会、接続教育プログラムを通して、デザイン・美術の魅力を伝えるとともに、本学の教育成果を積極的に発信する。

(5) 外部の大学情報ポータルサイトに本学の教育研究情報を掲載し、本学の教育成果を社会に向けて広く発信する。

【やりガイ・働きガイ】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり

(1) 働き方の改善活動や社会の変化や価値の多様化に即した新しい働き方のモデルを中・長期的な視点で構想し、実現に向けて桑沢ワークシフトプロジェクトを推進していく。

【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理

(1) キャンパス内の安全を確保するために土砂災害対策の調査をすすめるとともに、対策工事を実施する。【「森の中の美大」テーマ】

(2) 都市計画道路の敷設および将来的な建物老朽化を踏まえて、専門家の意見を聴取しながら長期的なキャンパス整備計画を策定する。【「森の中の美大」テーマ】

(3) 建物老朽化の対応として学内建物および設備の調査を実施し、長期修繕計画を策定するとともに空調、エレベーター、構内高圧電源ケーブル等を順次更新する。【「森の中の美大」テーマ】

(4) 有線・無線ネットワーク環境の経年劣化による故障リスクが高い部分の置き換えを行い、インフラ環境の安定稼働および性能向上を図る。併せて、セキュリティリスク回避のため、各種コンピュータ機器のリプレースやソフトウェアバージョンアップを推進する。

(5) 危機発生時の広報対応の基本方針を定めた危機管理広報マニュアルを整備し、危機対応の体制強化を図る。

専門学校桑沢デザイン研究所

【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践

(1) 情報技術の進展を背景として、時代と呼応する柔軟な分野及び専攻の設置についての可能性を検討する。

(2) 昼間部総合デザイン科の原点に立ち返り、デザイン領域間の連携を促進する取り組みを行う。

(3) 夜間部専攻デザイン科の教育課程を通して、社会人でも受講可能な職能教育を提供していく。

(4) 夜間部附帯教育と新たに設置する「Kuwasawa Design Studio」を通して、幅広い層へのデザイン教育を提供する。

【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり

(1) 渋谷キャンパスに新設した BAU SHIBUYA（2 号館）を活用し、学生と社会をつなぐ新たな取り組みを展開する。

(2) 適切な教育環境を維持するため、施設設備に関する新たな修繕計画を策定する。

【見える化】教育成果の社会発信と知識循環

(1) 「卒業生作品展」など、展覧会を通して教育成果の情報を発信していく。

(2) 社会人や遠隔地の志願者、在校生の保護者や卒業生に対し、オンラインツールを活用した説明会を開催し、学校の諸活動を積極的に周知する取り組みを行う。

【やりガイ・働きガイ】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり

(1) 前例踏襲やルーティンにとらわれない、より効率的な働き方を実施していく。

(2) 働き方の改善活動や社会の変化や価値の多様化に即した新しい働き方のモデルを中・長期的な視点で構想し、実現に向けて桑沢ワークシフトプロジェクトを推進していく。

【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理

(1) 18 歳人口減少に伴う経営状態の変動に備え、経営安定化に向けた支出構成比の見直しを検討する。

学校法人桑沢学園

【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践

(1) 2024 年に追加の改修工事をした渋谷新教育施設の名称を「BAU SHIBUYA」とし、専門学校桑沢デザイン研究所の教育を継続的に実施するとともに、学園として様々なコンテンツを実験的に発信する拠点としていく。

【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり

(1) 施設計画と連動した予算編成の実行と定着化を推進する。

【見える化】教育成果の社会発信と知識循環

(1) 設置校である東京造形大学が 2026 年に創立 60 周年を迎えることから、開学の地である元八王子のキャンパス跡地に八王子市の協力を得た上で記念碑を建立する。

【やりガイ・働きガイ】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり

(1) 働き方の改善活動や社会の変化や価値の多様化に即した新しい働き方のモデルを中・長期的な視点で構想し実現に向けて、桑沢ワークシフトプロジェクトを推進していく。

(2) 前年度に税制改正（インボイス制度・電子帳簿保存法）に対応して策定した業務フローの定着化を図るとともに、新たな業務フローに適した新経理処理関連システムの導入に向けて具体的な検討を行う。

【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理

(1) 私立学校法の改正にあわせて寄附行為や各種規程を改正したことに伴い、理事会や評議員会等の運営をそれらに対応していくとともに、役員や評議員等の構成を適正に移行していく。

(2) 社会行動規範強化の仕組みづくりとして、大学・研究所で生じている各種の課題を学園内で共有すると同時に、法務課が軸となり、ルール・プロセスの見直し・改善による課題解決のための対策を両設置校の関連委員会と協力して進めていく。

以上